

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

# いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第20号

2015年1月5日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団  
編集：専務理事 佐藤 正 俊  
住所：〒160-0023  
東京都新宿区西新宿1-9-1  
TEL:03-3349-6194  
FAX:03-3345-6388  
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

## 基礎力に想う



ヴァイオリニスト・桐朋学園大学特任教授

徳永 二男

(当財団音楽分野選考委員)

7月にロリン・マゼール氏の訃報を聞いた時、それまで忘れていた事が一気に頭の中によみがえりました。

今から約47年前、ベルリンがまだ東西に分かれていた頃の西ベルリンに留学していた時の事をなつかしく思い出しました。

当時ベルリン放送交響楽団(通称RIAS)のコンサートマスターだった豊田耕児先生のご厚意でエキストラとしてオーケストラで弾かせて頂いた事があります。その時の音楽監督が、まだ今ほど

世界的に有名になる前のロリン・マゼール氏でした。

彼のオーケストラに対するアドバイス、要求は大変に鋭いものでしたが、それを自然に自分の体に受け入れることが出来、自分の体に染み込むように感じられたのは自分でも驚きました。

そして、それは幸運にも身に付ける事の出来た基礎力のおかげだと思えました。

ヴァイオリンを教えて頂いた鷺見三郎先生にはロングトーン、音階、練習曲といった子供にとっては全く面白くない事を、先生の努力と忍耐によって基礎力として身につける事が出来ました。

また、11才から通った桐朋学園の音楽教室では斎藤秀雄先生の「音楽の勉強には室内楽が一番」と言うアドバイスでピアノ・トリオを始め、

毎週のレッスンでフレーズ、音楽的な表現、相手の音を聴く事、相手に対する心配りと思いやり等々、音楽の基礎を徹底的に仕込まれました。斎藤先生には、その後も、桐朋オーケストラ、個人的なレッスンでお世話になり、当時は難しくても理解出来なかった事も、いつの間にか自分の中に染み込み、体の一部となっていたのだと思います。

楽器を弾く事の基礎、演奏する為の基礎、これらが自然と身につけていた為に、初めて外国のオーケストラに加わっても困る事がなかったのは良い先生に恵まれたからだと思っていました。

これから音楽家を志す人達も常に基礎を大切に勉強して欲しいと思います。

「海外音楽研修生費用助成」の

二〇一五年度申込受付を開始

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去24年間の助成対象者数は、合計165名です。

二〇一五年度は、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主に音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」をご覧いただき、4月3日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 原則として音楽大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者
- ・ 声楽は一九八二年九月一日以降、器楽は一九八七年九月一日以降に生まれたる方。
- ・ 海外留学についての計画

- ・ と目標が明確である方
- ・ 二〇一五年から二〇一六年十二月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方
- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方
- ※ 既に海外に留学中の方も対象になります

3. 助成対象人員

・ 4名程度

4. 助成金額

・ 年額200万円

・ 助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

・ 所定用紙による。

2. 推薦書（2通）

・ 2名の方の推薦が必要。

・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名。

3. 録音資料および録音証明書

(1) 録音資料

・ 録音時間10分間程度の

オーディオCD（MDも可）を提出のこと。

二〇一四年七月以降に録音された演奏であること。

・ 応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。（声楽の重唱・器楽の重奏等、個々の演奏者を識別し難い録音は審査の対象外）

・ オーディオCD（またはMD）は録音した曲目の楽曲構造に依りて、ディスクに分割点をマーク（クリック）し経過時間を記入願います。

(2) 録音証明書

・ 応募者本人の演奏であることを、伴奏者（個人または団体）、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。

・ 証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名。

日程

1. 申込期限

・ 4月3日（金）必着（申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします）

2. 選考日程

・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は4月中旬

・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月24日（日）

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表

・ 6月上旬

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ

([www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp](http://www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp)) を参照下さい。

# 海外音楽研修生レポート

## 「私の愛すべきヨーロッパの父」



(12年度助成・声楽)  
竹下 裕美  
(留学先・ウィーン国立音楽大学・  
ブライナー音楽院)

「ひろみさんー」とマルクトのどこからか私を呼ぶ声が聞こえた。声の主はホームステイ先のテイ・トウズさんである。毎回急いでそこへ駆けつけると、大概が大した用ではなく、野菜片手に思いついた一芸を披露するか、私の腕を掴んでから尻を放るかのどちらかであった。

に住まわせて頂くことになったのだが、その友人がテイ・トウズさんであり、私が思い描くドイツ人のイメージを見事に払拭した。スイーパーおじさんだった。テイ・トウズさんは私の事を「大きい赤ん坊がきたー！」と大喜びで迎えて下さり、さすがにおしめまでは替えなかつたものの、過保護なまでに身の回りの事から全てのお世話をし下さり、大量の餌付けもして体重増加のお手伝いまでして下さった。このまま肉屋に売り飛ばすのが狙いでは？と思うほどパンパンに膨れた私だったが、辛い時や悲しい時、テイ・トウズさんの太陽のような明るい笑顔とポジティブさに救われ、心が折れそうな時は救えて厳しくお尻を叩いてくれた。また、出張ばかりだったため一人になる私を心配し、「何か困った時はここに金隠してるから使いなさい」と言ってくれたり、テイ・トウズさんのもとを離れた今でも、私がいつても帰れるようにと鍵を預けてたまにし、部屋も空けて

くれてる。赤の他人で愛情いっぱい育ててくれたドイツの父は、私にとって一生をかけて恩返ししていきたい大切な人である。今はウィーンへと拠点を移して、二つの学校に通いながら日夜研鑽を積んでいる。オペラも三つ同時進行で勉強しており、ありがたいうちに昨年末からは劇場でも歌わせて頂く機会も少しずつ与えて頂き、今の環境に身を置かせて頂ける事に感謝の気持ち一杯である。ヨーロッパでアジア人が生活するのは大変な事が多く、差別も無いわけではなさや謙遜は、時に理解されなかつたり裏目に出たりする。そして、はつきりとNOを言えない人は足元を見られ、騙されたり嘘をつかれたりもする。私も最初はこの性格を変えななきゃダメだ！と一時期頑張ってみたが、28年間培ったものは根が深く、無理して変わる方がきつかつたため、今はもう素のままの自分でいる。その代わりに、いろんな物事を正しく見極める力と判断力。まだまだまだひよっこで実力も経験も無いに等しい私だが、これから迎えるいろんな試練に対して、どんな時も前向きにポジティブに、そして唯一のチャームポイントであるえくぼと二重顎

の笑顔を決やさないようにしてあげたいなと思ってる。最後にになりましたが、このような貴重な経験をさせて頂けるのも貴財団のご支援あってこそです。心より御礼と感謝申し上げます。

## 「第2の故郷」



(12年度助成・ピアノ)  
増田 桃香  
(留学先・サンクトペテルブルグ音楽院)

サンクトペテルブルグでの留学生活も、2年が過ぎました。初めてこの街を訪れた時の静かな感動から始まり、今では冬の凍てつく寒さや夏の白夜さえもすべて自分の生活と共にあり、その中でピアノと向き合う日々は、悩んだり苦しい時も含めて、とても幸せなことだと感じています。幸いなことに今まで大きなトラブルに見舞われたことも、食事や生活が辛いということもなく過ごせています。

おそらく、自分はロシアに合っているのだと思います。志と柔軟な思考を持つ必要性は強く感じます。この2年で大きく自分の中で変わったのは、自身の思考や色々な価値観であるように思います。留学1年目は、今の自分から見てもストイックな生活をしていました。毎日練習した部屋と時間、曲等を手帳に記し、如何にして賢い練習をするか、どうやって成果を上げるかについて一人て頑なに考えていました。また自分の音楽についても徹底的に悩んだ年だったように思います。2年目は少し開放され、音楽に対する変なこだわりも減り、幾らか自由に演奏にできるようになりました。この2年間の留学中、ロシアだけでなく、何度も日本やヨーロッパで演奏の機会があり、それも自分の勉強の成果を見つめ直すいいタイミングとなつています。3年目となる今年、初めてペテルブルグでソロリサイタルを開催するという夢を実現すべく、レパートリーの準備に励んでいます。その他にも郊外で、自身のライフワークであるラフマニノフのコンチェルトを弾く機会も頂き、日々取り組んでいます。ここでの日本人留学生はゼロに近いですが、私の周りにはサポートしてくれる素晴らしい仲間がいます。

知り合いが一人もいないこの地を選んだことが、私にとって大きなチャンスであり、また強い信頼関係を築ききつかけにもなりました。全てに感謝しながら、常に成長し続けることを忘れずに、これからも夢を実現させていきたいです。

「思い出深い夏休み」



(12年度助成・ヴァイオリン) 松本 紘佳 (留学先・コンセルヴァトリウム・ウィーン音楽大学)

2012年から2014年にかけて2年間奨学金をいただきウィーンで研修したヴァイオリンの松本です。ヨーロッパの大学はたいがい夏休みが7月から9月のまるまる3か月あります。帰省する学生も多いようですが、先生からの「是非、他の国に行つてきなさい」との後押しもあり、1年目も2年目も3か所ずつのマスタークラスに参加しました。1年目、鉄道を2回乗り継いで8時間、ドイツのワイマールへ。最初のオー

ペイションはちよつとドキドキでしたが、オーケストラとの演奏会の機会と聴衆賞をいただけてラッキーでした。また、2週間の滞在中、ワイマールゆかりのゲーテやシラー、リストの家にも行き、特にゲーテは大好きになりました。8時間鉄道を乗り継いでウィーンに戻り、次はウィーンから鉄道で2時間ほど南東部の山中へ。ブライムスが滞在した家での演奏会でブライムスのヴァイオリンソナタを弾けて何か靈感を得たように思いました。そこから鉄道でスロヴェニアのマスタークラスへ。陸続きを身を持って実感しました。2年目の夏休みは、またまた鉄道に8時間乗ってスイスでのマスタークラスへ。ライン川の中州にある修道院を改築した建物に講師と学生が一緒に泊まり、11日間にレッスン7回、演奏会で弾くこと3回。最後の演奏会の会場はチューリッヒのトーンハレでした。そこから次の場所、オーストリア南部のオジアツハ湖のほとりには鉄道とバスを乗り継いでなんと10時間。でも、苦勞して行つただけのことはあり、素晴らしく美しい湖と山々を毎日見ながら練習に励み、湖の白鳥や鴨にパインをあげて仲良くなる、といった楽しいおまけもありました。また、思いがけずサイタルの機会をいただきました。3つ目のマスター

クラスは、再びスイスの山道はやめてチューリッヒまでは飛行機で行きました。飛行機の便利さを実感！皆様、夏休みのプランはよく練って、充実した3か月を過ごされますように。

「身体が資本」



(カナリア諸島テネリフエでのオペラ公演 ロッシーニ「チェネレントラ」共演者)

(13年度助成・声楽) 加藤 のぞみ (留学先・パルマ音楽院)

イタリヤ、パルマへ来て1年が過ぎました。幸せな事に多くの演奏機会に恵まれ、出会いに恵まれ、充実した留学生活を送っています。今回はパルマで私が経験したちよつと痛い初体験とスベイン・テネリフエでのオペラ公演について紹介したいと思います。

昨年2月、音楽院の授業とレッスンに加えてパルマ王立歌劇場のオペラ公演「結婚手形」を月末に控え、

夜まで稽古の毎日を送っていました。ある日、稽古から家へ帰ってきてトイレでおしっこをする時に膀胱を針で刺されるような今まで感じたことのない痛みを感じました。疲れているのかな、または何か身体に悪いものでも食べたかなと少し様子を見ていたのですが、その痛みはやむことなくだんだん増していき、トイレの回数が増え、何もしていても下腹部をズキン、ズキンと脈打つような痛みに変わってきました。病院に行きたくてもどこに病院があるのか、どう受診すればいいのか知りませんでした。場所が場所なので人に相談出来ず一人で不安を抱え込んでいました。数日後、痛みは我慢の限界を超え、パルマに長く住む日本人の先輩に相談して次の日朝一で病院に連れて行ってもらったことになりました。今日薬を処方してもらってやつと楽になれる！と思つたのですが、ここはイタリヤ、そう上手く事は進みませんでした。まず受付に行くことと受診は予約制なのでまずは予約してくださいとのこと。運良くその日の午後空いている枠があったので、一度家へ帰り、午後改めて病院へ。予約時間をかなり過ぎてから名前が呼ばれやつと受診させていただきました。いくつかの質問に答え、症状を説明した私に彼は一言、「今日は薬を処方する事は出来

ません。まず尿検査をして、その結果を持って後日改めて来てください。」とのこと。紹介してもらった検査機関に次の日朝一で尿を持っていき、検査の結果を2日待ち、また病院へ。最後の夜はまさに「悪夢」でした。死ぬほどの痛さで泣きながら一睡も出来なかったのです。検査の結果は「膀胱炎」。慣れない環境からのストレス、食生活の変化、冷え、それに加え午前中は音楽院の授業、午後はオペラの稽古でなかなかトイレに行けず我慢した事が原因だそうです。この出来事は一生忘れる事のない「痛い」思い出となりました。昨年9月、10月とスペイン領カナリア諸島のテネリフエにて、若手歌手のためのオペラプロダクションに参加してきました。6月にミラノ・マドリッド・テネリフエ3か所をオーディションが行われ、選ばれたのは14人。イタリヤ人、スペイン人、フランス人に混ざつての私は唯一の東洋人でした。2か月間、みんなと同じアパートで二人ペアになり共同生活をしながら、演出家とのワークショップ、ピアノリストとの個人レッスン、各国の歌劇場の人を呼んでのオーディション、二つのコンサート、そして最後にアウデイトリオ・デ・テネリフエという劇場でのオペラ公演といった内容でした。

初めての環境で、初めて会う人たちと2か月も生活をともにするということで、始めは本当に気を使いましたし、みんな驚くほどにフレンドリーなことについていけなかったり、「一人だけ東洋人だ。」と勝手に自分でも疎外感を感じたり。しかし、本当にいいメンバーに恵まれ徐々にとけ込むことができ、最後は涙涙の別れでした。メンバーとはバブルマに帰ってきてからも連絡をとりあっています。

「イタリア語の発音」のこと。オペラの終幕にシンデレラと王子様が結ばれ、落胆したティスベが「Dunque, noi siamo burlesque!（それじゃ、私たちがからかわれてたってことね!）」と言う台詞があるのですが、ある稽古の時に私がこの言葉を言った瞬間、みんなが笑い始めました。私が何がなんだかわからずにポカンとしていると近くにいたマッテオが「のぞみ、気をつけて! burlesqueじゃなく、burleteだよ! burleteはチーズの事。今のぞみは（それじゃ私たちがチーズなのね!）」って言ったんだよ。」と、笑いながら教えてくれました。イタリア語はRとLの発音に違いがあり、これを使い分けないとまったく違う意味になってしまうのです。他にもmoltoという言葉は「とても、多くの」という意味があり、とても頻繁に使

われる言葉なのですが、Rに変え、Hortoとなると「死んだ、死者」という意味となります。イタリアへ来て間もない頃は「そのくらいの違い、文脈でわかってよ!」と思っていました。が、間違えるたびにイタリア人の友達に指摘され、日本人にとっては些細なことでもイタリア人にとっては許せないことなのだと思えてくる事が出来ました。今では「これであつてる?」と友達に確認するほど、注意して発音しています。

この1年、「歌手は身体が資本」という事を身をもって感じています。テネリフェでは毎日朝10時から夜7時まで日曜日にも休む事なく稽古の毎日。その日の疲れを次の日に残さないよう、歌手同士でお互いにマッサージをし合ったり、食べ物に気を使ったり、稽古が夕方終わると体力作りのためにランニング、プールにも通いました。

歌手は、まさにスポーツ選手のように。常に前へ向かって進み続けていきたいです。

「モスクワに居て思うこと」



(13年度助成・ピアノ) 佐藤 彦大  
(留学先・国立モスクワ音楽院)

モスクワ音楽院は正式名称を「チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院」といいます。音楽院内のホールの一つは「ラフマニノフホール」と名付けられ、幾つかのレッスン室にはロストロポーヴィチ等の大音楽家の名前が与えられ、部屋には沢山のロシア出身の音楽家の写真が飾られています。演奏会では、ロシア以外の作曲家の作品が演奏されると、楽章間で必ず拍手が起こりますが、ロシア人の作品が演奏されている間は聴きません。僕はこのように環境の中で生活している内に、ロシア人の自国への誇りと、ロシアの大作曲家達への尊敬の念を知りました。

現在、僕はエリツ・ヴィルサラエフ教授の下で勉強をしています。彼女は世界第一線で活躍するピアニス

トで、忙しい合間を縫って後進の指導をしています。紛れもない偉大な音楽家の一人です。モスクワで演奏の日にレッスンがあります。何故こんなにもタフなのだろうか、と驚かされます。レッスンはグループで行い、他の生徒のレッスンも聴講できます。楽譜の読み方、奏法、解釈、構築の仕方など、とても勉強になります。音楽院のピアノは楽器自体が痛んでいて、音が暴れるので、何よりもそれをコントロールする術を会得しなければなりません。また、寮の練習室には88鍵全てが無事に鳴るピアノが存在していません。高音部の弦が殆ど切れていたり、鍵盤が途中で折れていたり、剥けているものも数多くあります。練習の際にはそれらの音を想像で補う必要があり、そのような環境の中で皆必死に高みを目指しているのです。僕も沢山の刺激を得て、奮闘しております。

モスクワ音楽院は、多少自国愛が強いとはいえ、メソッドを含む様々な事を後進へ伝え、クラシック音楽の伝統を守っています。僕もクラシック音楽の伝統を守り、伝えられる音楽家を目指し、残り一年半の留学で可能な限りを吸収して参ります。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者(作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、現在活躍中の作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から同部門の最優秀者に対し「明治安田賞(賞金50万円)」を寄託し、これまでに次の方々を受賞されています。

91年度 (第60回)	山洞 智
92年度 (第61回)	藤満 健
93年度 (第62回)	原田 敬子
94年度 (第63回)	伊左治 直
95年度 (第64回)	望月 京
96年度 (第65回)	若林 千春
97年度 (第66回)	なかにし あかね
98年度 (第67回)	大場 陽子
99年度 (第68回)	三浦 則子
00年度 (第69回)	小野 貴史
01年度 (第70回)	名倉 明子
02年度 (第71回)	朴 銀荷
03年度 (第72回)	宮村 寛
04年度 (第73回)	中澤 一人
05年度 (第74回)	横島 昌伸
06年度 (第75回)	篠田 昌伸
07年度 (第76回)	山根明季子
08年度 (第77回)	稲森安太己
09年度 (第78回)	江原 修
10年度 (第79回)	中辻小百合
11年度 (第80回)	三宅 悠太
12年度 (第81回)	魚路 恭子
13年度 (第82回)	網守 将平
14年度 (第83回)	杉本 友樹



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

千葉 純子

昨年は、以前共演した事のあるアーティストとのいくつかの念願の再演が実現した年でした。仲間たちと、妥協なく納得いくまでの音作りができた。また、印象深かったコンサートは、一昨年11月に台風で大きな被害を受けたフイリピンでのチャリティーコンサートでした。クラシックがあまり盛んではない国ですが、音楽を素直に感じ、興奮した子供たちの姿に、現地の方たちと共に大きな驚きを感じました。今後も音楽を通して文化交流を深めていけるよう、早速次回に向けてのコンサートやマスタークラスの企画が始まっています。

松井 久子

日本フィルハーモニー交響楽団ではクラシックの演奏会はもとより、ジャズを超えるたプログラムを演奏する機会に恵まれ、そして学校では後進の指導にあたり、あつという間ながらも大変充実した一年を過ごすことが出来ました。

昨春秋には、ケント・ナガノ指揮、モンテリオール交響楽団の来日ツアーに参加させて頂く機会もあり、違う言語のコミユニケーションの楽しさと難しさ、メンバーの明るく陽気な気質に魅了され、また生き生きと躍動している音楽に幸せを感じたひとときもありました。

ついづいづい仕事に追われる日々になりがちですが、最近の時間をみつけては自然に触れに行き、季節の移り変わり、樹々や花々の色彩感、そして自然の持つ力に改めて感動しながら心身共に英気を養っており、小さな日常の感動を音楽に生かしながら、今年も新たな一年を過ごして行きたいと思えます。

鈴木 優子

（打楽器・デュッセルドルフ在）ハンブルク国立劇場で演劇作品に出演して、さまざまな打楽器を演奏しています。Die Rasenden という公演時間が6時間半の作品を、引き続きこのシーズンも演奏しています。2015年は新しい作品（現代音楽と演劇）にも取り組んで参ります。

1992年度助成

場原 祥子

千葉大学に勤務して12年目になりました。教員を目指す学生とともに、音楽と教育について考える日々を送っています。同時に、ソロと歌曲伴奏を中心に演奏会を重ねています。

4月3日にはJTAホールでリサイタルを予定しており、ピアノソロとアンサンブルの新しいコンサートシリーズを始めたいと考えております。

田中 晶子

（ヴァイオリン・ミュンヘン在）最近の活動としては、王子ホールでのリサイタルやミュンヘン・ガスタイトル・フィルハーモニーで初演作品の演奏、トルコのイズミールでのチャイコフスキーのヴァイオリンコンチェルトなどを行いました。

今年、5月にマキシム・ヴェンゲローフ氏をゲストに招き、王子ホールリサイタルのほか、桐朋学園オーケストラとマキシム・ヴェンゲローフ氏とのデュオでの共演やニューヨークのカーネギーホールでのリサイタルデビューなどを予定しています。

梅津 千恵子

昨年年頭に、すみだトリフォニーでの帰国記念リサイタルを行い、日本での活動を再開しました。縁が再び繋がりに、アンサンブルグループを二つ立ち上げ、自分の足跡のある地、室蘭や現在の地元など、足元から音楽の花畑を拡げられる演奏活動を始めました。打楽器のある音楽を通して生きる勇気を伝えていける活動をと願っております。

1993年度助成

九頭見 香里奈

（ヴァイオリン・アウグスブルク在）私の近況ですが、特に変わった事は無く、Suttsartのオーケストラとして働きのながら、年に数回、ソロと室内楽のコンサートに出演しております。

言葉が遅かった息子も5歳になり、今は驚くほどきれいに、3か国語とも年齢相応に話せるようになり、私が日本語の中でドイツ語の単語を混ぜて話してしまうと、直してくるようにさえなりました。

家族と一緒に、職場から170kmの距離のアウグスブルクに住んで電車通勤をしています。時間が正確な日本の電車とは大違い、昨年10月も丸2日間ストライキで電車は動かなかったドイツ鉄道には困らせられる事が多いです。でも、小さな子供やお年寄り、体の不自由な方への配慮は、本当に素晴らしい国です。クラシック音楽への関心が高いドイツに住んでいる、演奏家は夢の職業だね、なんて言われたりして、私にとっては、色んな意味で住みやすい国です。

奨学金を頂いて留学が可能になった事がきっかけで、今の生活があると思うと、今でも財団の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

ちでいっぱいです。

1994年度助成

樋口 あゆ子

皆様こんにちは。私は2015年に日本楽壇デビュー20周年を迎えさせていただきます。

それを記念してThanks 20 Years 企画で各地で記念コンサート20か所を開催させて頂きます。

これまで20年プロとして音楽活動をさせて頂きました。心からのお礼として学校等に出向き、子供達に音楽をお届けさせて頂いたり、それぞれの現場地域の方々に、音楽をお届けしたりと内容は様々であり、千秋楽公演は2016年1月17日東京浜離宮朝日ホールでピアノリサイタルです。是非、宜しければ、どこかの現場で足をお運び頂けたら光栄です。

又、2015年11月には私が行委員長・総音楽監督を務めます「第2回日本ベトナムピアノフェスティバル」を開催予定であり、ベトナムと日本の若手ピアニストの育成の場・両国の友好の場として日本各地、ベトナム各地の合計7公演を開催予定です。

本フェスティバルは政府の方々にもお力添えを頂き今後両国が音楽を通して友好関係を築ければと思います。一方、私が2011年から司会を務めます毎週土曜日18時45分〜FM横浜ピアノワインナー響きのクラシックの番組も好調な聴取率を頂いており、これまで番組では、神奈川県黒岩知事、横浜市林

市長にもゲストとして数回にわたり番組出演を頂いており、番組では、音楽家を中心としたゲストを約100名を御紹介させて頂いて参りました。これからも情熱を持って自身の活動をされておられる色々な方々を御紹介させて頂きましたら幸いです。

財団の助成金で勉強中の皆様、留学では色々な体験をされると思いますが、是非是非、ご自分らしさを失わず、目標に向かって頑張ってください！そして、関東圏で大きなコンサートをする時は、是非、私に連絡ください。私のFM番組で、皆様の活動を御紹介させて頂ければと思います。

マリア・アヤ・アシユリ

(ヴァイオリン・ボン在)

12月には、ケルン放送交響楽団の一員として、東京と大阪でベートーヴェンの第九を演奏しました。ヨーロッパで音楽ができるのはありがたいことですが、数年前からのオーケストラの人員削減やコスト削減で、ドイツが世界に誇れるはずの音楽文化の灯が消えていく様子を目にするのは悲しいです。なるべく多くの人々の理解と共感を得られるよう、私の演奏で少しでも役に立てれば、と思っております。

松岡 みやび

(ハープ)

入りで手の動きが細かく解説され、執筆に10年・編集に3年という歳月を費やしました。日本のハープ界における本格的なメソッド発表は、モルナール氏以来46年ぶりとなります。

神田 寛明

(フルート)

出したいものです。有言即実行！(NHK交響楽団首席フルート奏者、アジア・フルート連盟常任理事)

1995年度助成

大森 潤子

(ヴァイオリン)

パリ留学から帰国しては、15年が経ちました。札幌首席として9年目に入り、お陰様で元気に活動させて頂いております。昨年は思い掛けない欧州で活躍している同級生の指揮により、キララで札幌と協演の機会に恵まれました。大学卒業以来、お互いつつがなく音楽を続けてこられて、こんなに素晴らしい再会があるのかと、確認し合った時間でした。

志茂 美都世

(ヴァイオリン・イギリス在)

2015年はデビュー15周年を迎え、5月にCDリリースと、9、10月にそれに伴ったリサイタルを東京、札幌、上田で予定しております。今日、このように活動できて頂けたのも、パリで勉強させて頂いたお蔭と、財団にはいつも心から感謝しております。

玉井 菜採

(ヴァイオリン)

2015年4月24・25日、所属する紀尾井シンフォニーエッタ東京の定期演奏会で、恩師アナ・チュマチェンコ先生とモーツァルトのコンチェルト1ネを演奏します。95年に知遇を得て以来、ミュンヘンで2年間師事し、そして今でも彼女の素晴らしい音楽、教育者としての在り方、そして人間性に、大きな影響を受け続けています。

石橋 幸子

(ヴァイオリン・チューリッヒ在)

2015年による弦楽三重奏、メンバリーによる弦楽三重奏、(Trioreade)一色の年になりそうです。3月にはバーゼル・カジノホールでのデビューコンサートを予定しており、その模様は後日DVD、及びライブ録音されて発売されます。是非一度お聴きください。是非一度お聴きください。是非一度お聴きください。

神代 修

(トランペット)

大阪教育大学に赴任して早くも三年目になります。他にも洗足学園音楽大学と大阪音楽大学の間を飛び回っているため、飛行機の利用回数は100回に近いです。演奏の面も充実しており有難いと思っております。昨年は、10年ぶりにスイスへ行き、ウィーン留学時代の仲間と旧交を温めました。改めて留学中の体験の貴重さに気づかされました。

1996年度助成

磯 絵里子

(ヴァイオリン)

昨年ソロ活動に加え、鎌倉ソリストメンバリー、明治安田生命チャリティコンサートなど室内楽の分野でも沢山の演奏活動をさせて頂きました。今年もソリストとして、7作目となる新譜CDを年初に発売予定です。記念コンサートも予定され、新しい挑戦の気持ちで取り組みたいと思っております。また、アンサンブルΦ(ファイ)でのリサイタルもあり、今後も様々なシーンで皆様に音を楽しんで頂く機会を大切にしたいと思っております。子供のためのコンサートや学校訪問コンサートなど、財団・地域創造のアーティストとしてのアウトリーチ活動でも、各地で心を通わせ演奏することの大切さを経験しております。

も感じています。留学の機会を得ている皆様には、学ぶことが沢山あるクラシック音楽の本場での経験を、是非その後の長い音楽人生に生かして、またその発展に寄与できるような真摯に学んで欲しいと思います。私の演奏会や活動は下記HPまたはブログで新着スケジュールを公開しております。  
http://www.34-net.com/eriko  
http://yaplog.jp/iso-diary/

1997年度助成

泉 良平 (声楽)

昨年は二期会『蝶々婦人』シャープレス、『ラ・ボエーム』マルチェッロを演じました。本年は2月二期会『リゴレット』モンテローネ、『4月日本オペラ協会』『袈裟と盛遠』の盛遠に主演を予定しています。また今年度より洗足学園音楽大学の客員教授に就任し、教員としても仕事をしております。一人でも多くの音楽家を輩出すべく日々試行錯誤と挑戦の日々。学生の情熱に負けないよう僕もいい歌を歌えるよう精進の日々でもあります。

増田 弥生 (声楽)

音楽に限らずですが、内容において真に人間の本质に迫っているものは、時を越え、現在に受け継がれています。そしてこれからも残して行きたいと思えます。まだまだ未熟な私ですが、音楽を愛する皆さんや社会のために何か役立てるよう、精進していこうと思えます。

山崎 貴子 (ヴァイオリン)

久しぶりに寄稿させて頂きます。2013年9月に第二子を出産し、二人の男の子の子育てと家事(主人がかなり活躍してくれて、何とか+)の仕事に、毎日「何故こんな時間を足りないのか!」と首をかしげながら、てんでこ舞いの生活を送っています。(笑)

今年3月には、久しぶりにスイスでリサイタル、そして6月と秋に、クアルテット・アーニマでBartokの全曲に挑戦する予定です。紀尾井シンフォニーエッタ東京の演奏会や藝高・藝大での後進の指導などでも、貴重な時間を送らせて頂いています。

1998年度助成

黒木 香保里 (声楽)

そんな中、やはり必要なのは「体力」...と実感する歳となりました。若い皆様、体力作りしながら充実した留学生活をお過ごしください!

故郷岩手を襲った未曾有の大震災から3年。声楽家として何が出来るのか、自問自答しながら、この3年間、被災地の学校をまわってコンサートをしてまいりました。そのような中、子供たちと触れ合っているのが、笑顔を、笑い声を聞き、子供たちが、たくましく立ち上がっていく姿に心震える日々でした。私は、これからの音楽家、生、被災地のみならず、多くの子供たちに寄り添いながら、共に、歌っていく活動をしたいと思えます。

豊嶋 起久子 (声楽・ウイーン)

私はヨーロッパの中の国々が運命共同体となる時期に、文化財団から抜擢を受けベルリンへ出た。声の資質から、スカラ座でも歌った日本のソプラノにイタリヤ行きを薦められたが、私はオーケストラの作品(交響曲、声楽作品)を含め総合的に芸術性を学びたいと言う直感に従った。私自身、伝統芸能の能楽の家で育った為に、古来から伝わる日本の芸術精神について肌で感じて育った。ヨーロッパのそれを身に付けたい、それが私の日本出発だった。

伊藤 野笛 (ピアノ・ハンブルク)

毎年ご連絡いただき恐縮です。式典で一昨日亡くなられた三善先生とお話したことが懐かしいです。28歳でこのろと留学をしてそのまま母校のハンブルク音大に勤め始めて間もなく9年。今年是小パーティーでもしようかと思えます。

1999年度助成

田邊 織恵 (声楽)

大学での仕事も2年目を迎えて、まだまだ慣れない中ですが、どうすれば学生たちの心に残る授業ができるかと日々奮闘しております。音楽活動の方は、11月末に青島広志作曲のオペラ「黄金の国」の雪役にて出演しました。長崎のキリシタン弾圧を

描く大変重いテーマの作品でしたが、青島氏自身の指揮で歌わせていただくことができ、貴重な経験をさせていただくことができました。また、今年4月には大阪のフエスティバルホールにおいて、マエストロ、ゼツタ氏指揮でロッシ「二作曲」ランスへの旅」に出演予定です。

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

帰国後12年が経ち、小さい頃から教えてきた生徒たちが次々成長してきています。一昨年はモスクワでのダヴィッド・オイストラフ国際コンクールジュニア部門で第2位入賞、昨年は全日本学生音楽コンクール大阪大会小学校の部と中学校の部で第1位入賞しました。ソロ・室内楽等の演奏活動に加えて、京都市立芸大、相愛大・高、県立西宮高で教鞭をとり、次世代の育成にも日々力を注いでおります。

2000年度助成

諸田 広美 (声楽)

昨年は、私にとって大きな節目の年でした。5月にピアノ二スト・松原聡と結婚。結婚式には、師匠・林康子先生はじめ沢山の演奏家が出席してくれ、大演奏会となりました。また、「週刊新潮」6月26日号でも私たちの結婚が取り上げられました。8月の誕生日では大台に突入。プロ・デビューして10年。それらを記念した演奏会を11月に開催しました。今年、8月にロサンゼ

スでオペラ「かくや姫」出演、9月に群馬交響楽団創立70周年記念オペラ「蝶々夫人」出演が決まっています。後者は初めて私の地元・群馬の皆さんに本格的オペラ公演を観てもらえる機会なので、大変嬉しく思っています。今年も健康に気をつけて、頑張ります。

上野 真理 (ヴァイオリン)

今年、リサイタルや美術館関連コンサート、弦楽四重奏の演奏会の機会を頂き、昨年の経験を生かし更に真摯に取り組んでいきたいと考えております。また、ハープ、フルートとの共演が増えたことで、弦楽器の特性とは? という疑問にぶつかり、公開講座を受講したり、ほかの楽器のコンサートに出かけたりする事が多くなりました。

神谷 未穂 (ヴァイオリン)

仙台フィルのコンサートマスターに就任して、今年で5年目を迎えます。また、東北エリアのみで放送ですが、NHK・TV(ひるはび)のレギュラー出演も4年目となりました。今年、仙台フィルと4月のシーズンオープニングコンサートで共演予定です。また、引き続き音楽での復興、子ども達へ音楽を届けるアウトリーチ活動にも力を入れます! アウトリーチは長野・上田、沖縄・名護、東京・三鷹等で行う予定です。3月には昨年大いに



話題にのぼった新垣隆さんと、従姉の磯絵里子とのデュオプリマで石巻、陸前高田でコンサートをします。

今留学中の方々、ソリスト、オーケストラで活動する上で、室内楽的な耳、協調性を持つているかどうかは、とても重要だと思えます。是非カレッジ、ピアノトリオ、デュオ等に積極的にチャレンジしてみてください。

シュレイプアー 弓子

(ハーブ・ダラス在) 皆様、ご清祥のことと存じ上げます。日本での近年の自然災害の多さに、アメリカにて胸を痛ませております。また、私のいるダラスではエボラ出血熱のアメリカ内初の感染者が出たというところで、一時期は騒然となりました。本当に様々なことが起こる昨今で考えさせられる場面の多い1年でした。昨シーズンは息子も一歳を迎えましたので、演奏活動も回数を増やすことができ、また、後進の指導に日々時間を費やし、次世代を担う若い世代に希望を感じつつ、私自身は一日一日をどうやって乗り越えようかと試行錯誤しながらの毎日を送っています。

藤井 香織

(フルート・ニューヨーク在) NYの醍醐味は、インスピレーションが本当にいろんな方向からやってくるということ。1年前、私はコロンビア大学で行われた次世代の女性リーダーを担う異業種サミットに講演と演奏で招待され、そこでそれぞれの分野で活躍するだけでなく、自分の才能

と技術を使って世界に貢献している人々に出会い、大きな刺激を受けました。以来、コンサートや録音以外で、フルーティストとしてどんなに小さくても可能性のどこかに貢献し始めることができました。その結果、途上国に存在する、誰よりも愛と情熱を持って音楽と向き合っている音楽家に、自信を持って音楽の先生になつてもらおうと音楽教師養成プログラムを提供する非営利団体、Music Beyond (www.MusicBeyond.org) を立ち上げました。現在、中央アフリカのコンゴ民主共和国の首都キンシャサに現存するキンバングスト交響楽団のメンバーを数か月一度ずつお教えしながら支援しています。定収入を持つ人口が5%にしか満たないコンゴ。そんな国で「充実感」と「希望」を持つことのバワフルさを感じてもらいたい、彼らに先生として次世代の子供たちにそのメッセージを託してもらえたら、こんなに幸せなことはありません。

広い視野で物事が見られるようになったのも、十数年前に明治安田クオリティオブライフ文化財団の助成で留学させて頂いたおかげ。本当にいつまでも感謝しています。

2001年度助成

大石 将紀

(サクソフォン) 2012年に結成したサクソフォン、チューバ、ピアノ、打楽器、エレクトロニクス、現代音楽グループ「東京現音計画」のメンバーとして第13

回サントリイ芸術財団佐治敬三賞を受賞しました。新しい音楽への探求心は留学時代に身につけた物で、お陰様で留学の成果をまた一つ残すことができました。今年も年に2回のコンサートを中心に活動して参ります。

2002年度助成

大崎 結真

(ピアノ) パリから日本に拠点を移した3年の時が流れました。国内での演奏会に多々お招き頂き、3枚のCDもリリース致しました。

また、「日本シヨパン協会賞」を受賞し、記念のリサイタルが1月28日、東京文化会館にて開催されました。昨年は英国7か所でのリサイタルツアーの機会にも恵まれ、今秋にはジュネーブ国際コンクール70周年記念音楽祭にてリサイタルを行います。海外で学ぶ機会を頂き、今があることを思う時、感謝至極に存じます。

2005年度助成

白木 あい

(声楽) この文章が皆様の目に触れる頃には、1月3日のNHKニューイヤーパーラコンサートもお正月気分を味わっていることでしょうか。

娘を出産して早いものでもうすぐ2年が過ぎようとしています。この2年は本当に、毎日を送ることで精一杯でした。母親の緊張が伝わるので

しようか、なぜか私の本番の前になると風邪をひいて熱を出す娘。そしてその風邪をまもなくもらってしまい、そのまま本番を迎える。そんなことが数えきれない程ありました。

しかし、自分より大切なものの存在は、どんな試練や困難も吹き飛ばす力を与えてくれるように思います。日々私の体力を奪うお転婆な娘から、私は音楽に向き合うための沢山の力をもらい、これからはママさん歌手として多くの試練に立ち向かおうと思います！

佐野 隆哉

(ピアノ) 昨年は、東京文化会館での初リサイタル、銀座ヤマホールにてパル5人組の2回目の公演、そして日本フィルハーモニー交響楽団とラヴェルのピアノ協奏曲を共演するなど、とても有意義な、そして先へと繋がる経験をさせて頂きました。今後は、大学での後進の指導にあたりつつ、自身の音楽をより深く大きく可能性を広げていきたいと思えます。

横坂 源

(チェロ) 昨年はドイツのシュトゥットガルト留学時に知り合った放送響の仲間たちとLudwig Chamber Players を結成し、ドイツ南部、日本全国をツアーで演奏させていただきました。今年も予定されていますので、レパートリーを増やしていくながら、ドイツの風と共にお客様の心に触れる音楽をお届けできたらと思っています。

います。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

遠藤 真理

(チェロ) NHK RFM「きらクラ」というラジオ番組を始めて3年経ちます。沢山のゲストの方にもお会いでき、また、コラボレーションも出来たり有意義な時間を過ごせています。

コンサート活動では、1月には演奏される機会が大変少ない、尾高尚忠のチェロ協奏曲を演奏します。大変楽しみです。コンチェルトです。

2006年度助成

佐藤 卓史

(ピアノ) 2014年春から年2回の「佐藤卓史シューベルツィクルス」を開始、今後15年にわたってシューベルツィクルスのピアノソロ・連弾・室内楽作品を取り上げます。次回第3回「即興曲」は4月16日、東京文化会館小ホールです。昨夏には新しいCD「ブルクミューラー・18・12の練習曲、ほか」をナミ・レコードよりリリース、レスナー向けの公開講座も各地で行っています。(www.takashi-sato.jp)

鈴木 真貴子

(ピアノ) 昨年も演奏活動と音楽高校での指導を並行しておこなう充実した日々となりました。またフランス語を話す世界のプレイヤーの方々の通訳などもさせて頂いたとき、彼らの人生観や音楽観、そして何より

もその音楽を近くで感じ、とても大きな刺激となりました。久しぶりにフランス語の中に身を置くこの経験は、留学中のパリで感じた様々な事柄を私に思い出させてくれました。今年も引き続き音楽と共に、日々を豊かに過ごせたら、と思っております。

2007年度助成

上江 隼人 (声楽・ミラノ在)

現在、イタリアと日本を行き来しながら活動しております。年を重ねるほど歌の奥深さを感じ、また、人として成長することが人の心に響く音楽を奏でることにつながると信じて生活しています。昨秋、イタリアで新事務所に移り、徐々に出演機会を頂いております。

昨年は、イスラエル管弦楽団「カヴァレリア」アルステイカーナ・パリアッチ」(アルフィオ・トニオ役)、NHKラジオ「リサイタル・ノヴァ」に出演、今年は、1月3日 NHKオペラニューイヤークンサート、2月19・21日 東京二期会オペラ劇場「リゴレット」(タイトルロール)、5月にはキャリアリ劇場「ボエーム」(マルチエツコ役)に出演予定です。

平野 朝水 (チェロ・パリ在)

2013—14年シーズンには、リヨン国立歌劇場の契約団員として活動する機会を頂き、様々なオペラ公演に関わる機会を得られたことがとても大きな収穫となりました。

リヨン歌劇場は、ヨーロッパで唯一観客の四分の一が25歳以下だというほど、全ての観客に開かれた歌劇場です。集客に悩み、特に若い観客を集めることが難しいと言われているクラシック界において、珍しいことだと考えますし、このような経営の歌劇場で働いたことはとても良い経験になりました。上演される演目も、古典から新作まで非常にバラエティに富み、指揮者、演出家、歌手ともに常に素晴らしい仕事をすると人達が招聘されている、とても充実した職場でした。

2008年度助成

クリステン・木実・ウィットマー (声楽・オランダ在)

昨年は、古楽界の巨匠フランク・ブリュッヘン指揮で、18世紀オーケストラとラモンの「優雅なインドの国々」ガラコンサートで歌う機会に与りました。これがブリュッヘン氏最後の舞台となりました。印象的で、これから音楽家としての歩みを築く上で、一生憶えていたいと思う特別な体験となりました。

相田 麻純 (声楽)

日本に帰ってきて数年、人との出会いに感謝しつつ音楽と共に生活できていることを幸せに思う日々を送っています。そして、昨年は、第12回東京音楽コンクールにて三位

に入賞することが出来ました。何事にも挑戦する意欲と、自分の可能性を高める努力を怠らぬに前を見て歩んでいけるようにこれからも精進して参ります。

塚越 慎子 (マリンバ)

指先、関節、手のひらでマリンバを演奏する。通常、マリンバを奏するの絶対不可欠なマレットを使用せず、手や指を駆使し、約15通りもの音色に変化をつけ、さらに、照明にも細かく指示があり、「スーパースター」で床を擦りながら登場する。という大変面白い演出がある。池辺晋一郎氏作曲の「モノヴァランスIV」という作品は、以前からぜひ挑戦したい!と思いつつ、続けていた作品のひとつです。

昨年、紀尾井ホールで行われた私のリサイタルにて、この作品をプログラムに取り上げました。そしてその後も、多くのコンサートをさせていだいておりませんが、このリサイタルで感じる事が、このマリンバの新たな可能性は、私の音楽に大きな影響を与えてくれたと感じています。今年もたくさんさんのコンサートが予定されており、マリンバの新天地を開拓できるように、私ならではの音楽を奏で続けられるよう、挑戦し続けたいと思っております。

2009年度助成

重島 清香 (声楽・ワイマール在)

昨年6月には故郷沖縄にて地元オーケストラとマールでの演奏はワイマールで仕事を始めて以来3年ぶりで、時間の都合等でなかなか機会がありませんでしたが、この程それが実現し、知人や家族、沢山の方々から好評を頂き、大変光栄でした。所属のワイマール歌劇場では、「バラの騎士」と「魔笛」の新演出他に出演しております。歌手として一つ一つの舞台を精一杯努め、更なる目標に向かって前進していきたいと思っております。

金子 平 (クラリネット)

オーケストラの仕事にも慣れてきて、ソロや室内楽にも出演させていた機会が多くなってきました。ドイツで勉強した先生の音色や音楽性を必死に追いつめる日々でしたが、少しずつ自分のカラーも出していかれたら、と思っております。

2010年度助成

高橋 さやか (声楽・マルセイユ在)

マルセイユでのフランス国立オペラ研究所の一年間の研修を昨年7月に終え、フランスのエリゼントのオーディションに合格しました。エリゼントとの活動は9月から始まったばかりですが、この与えられたチャンスを最大限に生かし、日本だけでなくフランスの地でも活躍できるように努めます。

う、挑戦を続けていくつもりです。

酒井 有彩 (ピアノ・ベルリン在)

ベルリンでの生活も早いもので5年目になり、ベルリン芸術大学国家演奏家コースに在籍しています。今年、ベルリンでの演奏会に加え、日本では、2015年度シヤネアル・ピグマリオン・デイズ・アーティストをさせて頂いたいただきます。大阪交響楽団、名古屋室内管弦楽団との共演も決まり、楽しみな一年になりそうです。

音楽から揺るぎの無い意思、自分のカラーが映し出される、そんな音楽を奏でることができるよう、日々しっかりと精進したいと思います。

2011年度助成

小林 大祐 (声楽)

長期の海外生活というのは色々気を張ることが多かったですが、僕は夫婦で留学しましたが、スリや空き巣等の怖い被害にも遭いました。そんな時周りの日本人の友達やイタリア人の友達が親身に接してくれてとても助かりました。そういった意味でもコミュニティをを広げることは海外生活において大切なことだと実感しました。

坂本 彩 (ピアノ・ベルリン在)

昨年5月に、2014年度スタインウェイ賞に推薦いただきベルリンでリサイタルを行いました。この1年はその他にも、いくつかの地で演奏

する機会に恵まれ、その地独特の音楽観や空気を体感しました。与えていただく一つのチャンスが今後の活動に繋がるよう、またそこで生まれる出会いを大切に、引き続き精進していきたいです。

永井 基慎  
(ピアノ・フランス在)

パリ生活も4年目に入り、昨年無事にパリ音楽院第一課程ピアノ科を卒業し、現在は修士課程ピアノ科のほか、第一課程室内楽科に在籍しております。室内楽科では以前より憧れていたフルーティストのミシェル・モラゲス氏に師事し、大好きなアンサンブルを更に掘り下げながら充実した日々を過ごすことができ、嬉しく感じております。

2013年度助成

谷垣 千沙  
(声楽・ドイツ在)

あつという間に夏学期、夏休みが過ぎ去り、ドイツでの二度目の冬が来ました。その冬に、一つ望むことがありました。寒くなってくれませんか。去年のように暖かい冬だと、歌曲に見るようなドイツの冬を体験できないし、グリューワインが美味しくないから。寒くなあれ!!!

藤井 淳子  
(チェロ・アウグスブルク在)

ドイツ留学も2年目になりました。これまでにロシア・モスクワチャイコフスキー記念音楽院で大学院まで出てきました。再度、ドイツでマスターという修士課程をこなすこととなりました。昨年

11月にはドイツで初のリサイタルを無事に終え、今後も学内オーケストラとの協演の予定や今年6月にロシアにて行われるチャイコフスキーコンクールの出場に向けての準備を進めています。

新村 理々愛  
(フルート・ロサンゼルス在)

皆さんこんにちは!『映画界、フュージョン界、ダンス界、コミック界、ゲーム界などジャンルを超えた世界で演奏する事!』まさに今期はこれからの願望を実現できた期間となりました。その中でも「フュージョンショー」やサンデイエゴで行われた「10万人動員のコミコン」での演奏はなかなか経験出来ない場所での演奏だったので来客者の反応が様々で興味深かったです。

やはり一番のニュースは「ハリウッド映画撮影初体験」です。60年代のニューヨークを舞台にしたドキュメンタリー映画です。オノヨーコさん役に挑戦しました。とにかく映画界進出の第一歩となりました。

幼少の頃からどなたに出会ってもこのように助言されてきました。「楽器を奏する者に取って一番大切なのはより多くの経験を積み重ねること!」その頃は正直ピンと来なかった言葉でしたが、今はその言葉通りだと思えます。経験と言う「層」を幾重にも重ねること、自ずと「音」の豊かさが香るのではないかと自負しています。なので、今後もこのL.Aでしか経験出来ない事はなんでも吸収してなんでも生かして行くつもりです。

もりです。予定としてはオケでのソロスト、コンクール等が待ち受けていますので「一番」を目指してひたすら地道に大学の地下練習室で「練習ガンバリます!」又、いい結果をお伝え出来る筈ですので、その時を楽しみにして下さい。

2014年度助成

熊田 彩乃  
(声楽・ウイーン在)

ウイーンに留学して5年。全ての経験が掛け替えのないものです。ただ一つ、舞台上に立つ者として不覚なことに、多忙な生活の中で、身体に随分余分なものを蓄えてしまっていました。それを取り去るため、研修前日本に滞在していた一か月間、トレーナーの指導の下で集中的に筋トレをし、体を絞りました。甲斐あって、心身共に一新して研修を開始することができました。勉学にオーデイションに、健康的な生活に、全力で取り組む所存です。

宮里 直樹  
(声楽・ウイーン在)

海外留学の準備で一番重要な事は、現地の原語をなるべく多く勉強して行く事だと思います。僕の場合、オペラ科で勉強しているため、コミュニケーションが必須となり、日々言語の壁を厚く感じています。今年6月に授業の一環で、オペラ(フランスの旅)に出演する予定です。国際コンクールも視野に入れ、体調管理もしつかりしつ、楽しみながらも頑張りたいと思います。

私の毎日の練習時間の五分の一は室内楽のリハーサルです。他楽器の奏者から学ぶことは本当に多く音楽の喜びも室内楽から学んだといっても過言ではありません。色々な国や地域の小さな場所でも弾くと聴衆と一体となって盛り上がり、室内楽の魅力が特に、存分に発揮されます。

浦山 瑠衣  
(ピアノ・ボストン在)

今年は昨年12月からスタートしたヴァイオリンとのデュオリサイタルツアーをイタリヤ、プエルトリコ、ボストン、フロリダで開催するのを皮切りに、ソロリサイタル、ピアノトリオリサイタル、ヴァイオリンやチェロとのデュオリサイタル等を予定しています。

コンクールについては、サントンデール国際ピアノコンクール(スペイン)、リーズ国際コンクール(イギリス)、浜松国際コンクールに参加を予定しています。また、コンクールの予備審査の結果次第ですが、6月に南米でのツアーを計画したいと考えています。コロンビアでは、現地の友人とデュオで小学校を廻る計画を、ポリオアでは友人の音楽祭にて演奏を計画中です。

尾池 亜美  
(ヴァイオリン・オーストリア在)

「脱・西洋趣味」ヴァイオリンリストなら誰もがする様に、私も小さい頃から楽器の練習を始めた。日本人や外国人の先生に、練習の仕方から、フレーズの歌い方まで、西洋の音楽を叩き込まれてきた。しかし、四半世

紀そんな生活を送り、皮肉にも今現在は、その「ヨーロッパらしい演奏」のようなものから脱して、日本人である自分の個性を見出したいと熱望している。一度はヨーロッパのルール、スタイル、音楽語法に染まることは大事だと思いが、もう真似事をしていくだけでは満足できなくなってしまう。

ヨーロッパでは見回せば、どの演奏家も西洋のクラシック音楽の演奏家、なんて自覚はなく、本人のお国柄やオリジナリティを背負って演奏していた。アジア人として、アジア人として個性を持って初めて、国際的に興味を持たれる演奏家たり得るのではないかと。

最近では、私自身自分がいかにか、改めて感じもしている。これから練習、演奏を続ける中で、日本の文化を見つめなおしながら、日本人なりの西洋楽器の演奏スタイルを築いていきたいと思う。

中川 日出鷹  
(フアゴット)

スイスにてルツツェルン音楽祭アンサンブルの演奏会がありました。若い作曲家への委嘱作品を若い演奏家が初演するというプロジェクトでもとても良い経験になりました。メンバートと過ごす時間は、こんな時間がずっと続けばいいなと思うほど愛おしいものになりました。若い芸術家が羽ばたける機会や芸術活動を理解して下さる方々に恵まれることを幸せに思います。

「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

助成対象者		助成対象者		助成対象者	
氏名	専攻	氏名	専攻	氏名	専攻
<b>1991年度</b>					
久住庄一郎	声楽	高橋博子	オルガン	白金あゆみ	声楽
妻屋喜秀	ピアノ	川崎奈貴子	ヴァイオリン	木原野村	ピアノ
日澤聖子	ピアノ	山田中川	ヴァイオリン	佐川横遠	ヴァイオリン
江大友	ヴァイオリン	早大伊藤	ヴァイオリン	横遠藤	チェロ
千植葉村	ヴァイオリン		ギター		クラリネット
小松林井	ヴァイオリン		クラリネット		
斎藤鈴木	ヴァイオリン				
末次木	ヴァイオリン				
優子	ヴァイオリン				
介規子	ヴァイオリン				
子	ヴァイオリン				
<b>1992年度</b>					
佐野成宏	声楽	黒木香保	声楽	江石白	声楽
揚茂祥彦	ピアノ	豊嶋起久	ヴァイオリン	石根根	ピアノ
志中征晶	ヴァイオリン	増田のり	ヴァイオリン	白根藤村	ピアノ
田藤中晶	ヴァイオリン	伊藤野裕	ヴァイオリン	佐藤真貴	ヴァイオリン
伊藤本亮	ヴァイオリン	新扇谷泰	ヴァイオリン	朝吹	ヴァイオリン
宮飛澤浩	ヴァイオリン	田倉雅真	ヴァイオリン		
富澤佐恵	ヴァイオリン				
安真理子	ヴァイオリン				
早川りさ	ヴァイオリン				
梅津千恵子	ヴァイオリン				
<b>1993年度</b>					
横田みぎわ	声楽	宮部小牧	声楽	盛重田	声楽
岡田直樹	ピアノ	諸野小広	ヴァイオリン	松本浦	ピアノ
有森直香	ヴァイオリン	上野谷未穂	ヴァイオリン	三上金	ヴァイオリン
九頭見香	ヴァイオリン	神日下紗矢	ヴァイオリン		フルート
山本千尋	ヴァイオリン	工藤すみれ	チェロ		クラリネット
斎藤千貴	チェロ	シュレイファー	ヴァイオリン		
萩原貴子	フルート	中井香	ヴァイオリン		
岩井二	チューバ		フルート		
<b>1994年度</b>					
樋口あゆ子	ピアノ	山本美樹	声楽	高橋さやか	声楽
M.A.アシュリー	ヴァイオリン	呉村文雄	ピアノ	島田清真	ピアノ
小林幸輝	ヴァイオリン	川村下雄一	オルガン	酒井美	ヴァイオリン
清水麗里	ヴァイオリン	椎名紗矢	ヴァイオリン		
礒中繪奈	ヴァイオリン	日三上	ヴァイオリン		
横山加子	ヴァイオリン	大石将	サクソフォン		
赤松太	チェロ				
松岡みやび	ヴァイオリン				
神田寛	フルート				
<b>1995年度</b>					
大井浩明	ピアノ	柳原香太	声楽	竹下裕美	声楽
大森潤子	ヴァイオリン	崎結匡	ピアノ	増本桃	ピアノ
榎本大進	ヴァイオリン	高野沙和	ヴァイオリン	松上村	ヴァイオリン
志美都	ヴァイオリン	橋村香	ヴァイオリン		チェロ
玉井幸	ヴァイオリン	高杉香	ヴァイオリン		
石橋代修	トランペット	渡邊方	チェロ		
<b>1996年度</b>					
小山麻穂	声楽	市原愛衣	声楽	谷垣千沙	声楽
山田絵里	ヴァイオリン	本田智恵	ピアノ	加藤彦彦	ピアノ
上里英有	ヴァイオリン	山本重順	ヴァイオリン	佐藤藤井	チェロ
清水谷	ヴァイオリン	武藤希子	ヴァイオリン	新藤井	フルート
大谷玲裕	ヴァイオリン				
安藤友美	ヴァイオリン				
篠崎美生	ヴァイオリン				
古川展崇	ヴァイオリン				
中山隆	トランペット				
<b>1997年度</b>					
泉良平	声楽				
増田弥生	ピアノ				
大場温子	ピアノ				
<b>1997年度 (続き)</b>					
<b>1998年度</b>					
<b>1999年度</b>					
<b>2000年度</b>					
<b>2001年度</b>					
<b>2002年度</b>					
<b>2003年度</b>					
<b>2004年度</b>					
<b>2005年度</b>					
<b>2006年度</b>					
<b>2007年度</b>					
<b>2008年度</b>					
<b>2009年度</b>					
<b>2010年度</b>					
<b>2011年度</b>					
<b>2012年度</b>					
<b>2013年度</b>					
<b>2014年度</b>					
<b>2015年度</b>					
<b>2016年度</b>					
<b>2017年度</b>					
<b>2018年度</b>					
<b>2019年度</b>					
<b>2020年度</b>					
<b>2021年度</b>					
<b>2022年度</b>					
<b>2023年度</b>					
<b>2024年度</b>					
<b>2025年度</b>					
<b>2026年度</b>					
<b>2027年度</b>					
<b>2028年度</b>					
<b>2029年度</b>					
<b>2030年度</b>					
<b>2031年度</b>					
<b>2032年度</b>					
<b>2033年度</b>					
<b>2034年度</b>					
<b>2035年度</b>					
<b>2036年度</b>					
<b>2037年度</b>					
<b>2038年度</b>					
<b>2039年度</b>					
<b>2040年度</b>					
<b>2041年度</b>					
<b>2042年度</b>					
<b>2043年度</b>					
<b>2044年度</b>					
<b>2045年度</b>					
<b>2046年度</b>					
<b>2047年度</b>					
<b>2048年度</b>					
<b>2049年度</b>					
<b>2050年度</b>					

(注)  
 ・\*は海外音楽コンクール助成対象者 (同助成は2003年度以降廃止)  
 ・(a)と(b)とは同名の別人  
 ・○は2年連続申し助成決定